

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「誠実・努力・協調」を校訓として掲げ、生徒も教職員も健康で生き生きと学び続ける自分にとっての「最高」の学校。与えられた生命の可能性を伸張し、能力を最大限に発揮する知性と感性を育み、国際社会の中で適切な判断、意思決定、社会参画ができ、人とつながり、心豊かに次代を生きる力をはぐくむ教育を実践する。

1. 学び続ける意欲と態度を養い、確かな学力を身につけ、高い志を持って将来を見据えた進路を切り拓き、自らの人生を創造する力をはぐくむ。
2. あらゆる教育活動を通して人権感覚を高め、「誠実に生きる力、努力し続ける力、協調する力」を身につけた豊かでたくましい人間性をはぐくむ。
3. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力を身に付け、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1. 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成

## (1) 授業力向上の取組み

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の研究・開発・実践を組織的に進める。
- イ 「観点別学習状況の評価」を進め、生徒を中心に据えたビジョンを共有し、計画・実践(指導)・評価・改善(PDCA)を繰り返し、不断の授業改善に取り組む。
- ウ 1人1台端末を利用した学習環境を整備し、これまでの教育実践にICTを取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に組み合わせた学びを開発・実践する。
- エ 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・校内外の研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを進める。

## (2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み

- ア 1年次から学力生活実態調査、模擬試験等を利用して学習到達度を把握し、教科・学年・分掌が協働して基礎学力定着と応用的学力伸張に取り組む。
- イ 1年次から自学自習が学力伸張に繋がる実感が持てるような個別の学習到達目標を設定し、組織的に継続した学習支援を効果的に行う。

## (3) 自学自習の習慣を確立する取組み

- ア 授業において、「復習・予習→授業→復習・予習」のサイクルを日々行う意識を根付かせ、学び続ける力をつける。
- イ 小テスト・朝学・補習・講習・週末課題など、これまでの教育実践がより効果的な学習になるようにICTを取り入れ、学習動画配信やオンライン学習の開発・実践に取り組む。
- ウ 学校経営推進費事業(R3)「花園高校図書学習情報センター」を設置。授業、補講指導、オンライン学習支援など、生徒の学びを包括的な改革を進める。
  - ①「情報発信スタジオ」を整備し、教員によるオンライン教材の開発に資するとともに、国内外複数地域との同時接続による交流、本校舎普通教室へのライブ配信などの機能を授業等で積極的に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力及び主体態度を養う。同時に撮影した動画をアーカイブ化し学習教材として活用する。
  - ②「校内教育資料横断検索システム」を構築し、図書館や各教科準備室保管の書籍、探究発表や学校行事の映像や文書、各教科等の学習動画をアーカイブ化し、本校での日々の教育活動の全容を横断的に関連付けて、検索・閲覧できる「情報センター」をつくる。また、各資料には資料管理者や教員が付ける検索タグの他に、生徒が記述可能なタグ領域を用意し、資料の有機的な結合を促進する。
  - ③「生徒が読みたい本」「生徒に読ませたい本」を整備し、読書活動を啓発し、読書によって教養を身につける経験をさせ、自主的な読書活動を支援する。

※外部機関の客観的学力診断テストにおける学力(2年次2回め)B2以上 40%、B3以上 80%

- 「生徒向け学校教育自己診断(以下生徒自己診断)」において、令和5年度までに「授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」78%以上(R2:75%)、「教え方に工夫をしている先生が多く、授業は分かりやすい」78%以上(R2:75%)、「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用」90%以上(R2:89%)、「授業・補習を通じて、進路に必要な学力を得ることができる」90%以上(H30:85%、R1:88%、R2:86%)、「態度よく集中して授業を受ける」86%以上(H30:86%、R1:83%、R2:83%)、「宿題・予習・復習など、家庭学習の習慣がついている」60%以上(H30:49%、R1:42%、R2:56%)、また、令和5年度に読書を年間10冊以上の生徒80%を達成。

## 2. 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成

## (1) 進路指導体制の構築

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた3年間の進路指導計画を策定し、教科・学年・分掌の協働による全教職員が一体となって取り組む進路指導体制を構築する。
- イ 大学や企業など外部の様々な職業人を講師として招聘し、または、訪問して学ぶ機会を安定して供給できる体制を整える。

## (2) 探究的学習の推進

- ア 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に則り、SDGs 探究活動や進路探究学習に読書活動を積極的に取り入れ、インターネットによる情報のみに頼らない、確かなエビデンスに基づく探究的学習を実践する。キャリアパスポート等に反映し、自らの進路を切り拓く力を育成する。
- イ 「総合的な探究の時間」や「花園進路探究プログラム」等で自発的に学び探究する能力を引き出し、全生徒が探究活動を通じて成長した実感が持てるよう指導する。
- ウ SDGsに係る探究活動において、当事者に共感し、真に当事者意識を持って課題解決する能力を養い、未来を創造する力を育成する。

※生徒自己診断において、令和5年度に「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%(R2:85%)以上、「探究的な学習を積極的に取り組む」80%以上(R2:68%)、「自分の進路についてしっかりと考えている」80%以上(H30:77%、R1:77%、R2:75%)、また、第一志望進路実現率75%以上、国公立大学及び難関私立大学合格者120名を達成する。

## 3. 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成

## (1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成

- ア 互いに理解し繋がる力を育成し、誰もが自分の居場所がある集団育成に取り組む。
- イ 関係教科と連携し、組織的・継続的な指導を行い、情報リテラシーを育成する。

## (2) 社会性の育成

- ア TPOに応じ、責任感を持って行動できる生徒を育成する。
- イ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔で快適な学習環境を保つ。

## (3) 自主的な活動への参画

- ア 生徒会活動やボランティア活動に協調性を持って積極的に取り組む生徒を育成する。
- イ 部活動に所属し、目標を持って継続して取り組む生徒を育成する。

※生徒自己診断において、令和5年度に「本校で人権を尊重することについて学べている」90%以上(H30:83%、R1:89%、R2:89%)、「HR教室は居場所として快適である」88%以上を維持(H30:88%、R1:88%、R2:88%)、「本校で友好的な人間関係を築いている」90%以上を維持(H30:94%、R1:95%、R2:93%)、「本校の校則や決まりをよく守っている」90%以上を維持(H30:96%、R1:95%、R2:92%)、「教室や廊下などは清掃がいきとどき授業をするのにふさわしい環境である」70%以上(R2:65%)、「HR活動や生徒会行事に積極的に参加」85%以上(H30:83%、R1:83%、R2:83%)、「部活動が活発」90%以上を維持(H30:90%、R1:91%、R2:92%)」を達成する。

## 4. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成

## (1) 多文化理解教育の一層の充実

- ア 留学生や姉妹校との交流(WEBを含む)や多文化理解に係る体験的学習を推進し、多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う。
- イ 英語や第二外国語(韓国朝鮮語・中国語・フランス語)の授業等を通して、異国の文化や伝統等を学び理解し尊重する態度を養う。

## (2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実(国際文化科・普通科)

- ア ICTを活用し、4技能を総合的に伸ばす指導方法を開発するとともに、ネイティブ英語教員を最大限にいかした英語教育を実践する。
- イ スピーチコンテストやインターナショナル・フェスティバル等で発表する機会を積極的に取り入れる。
- ウ GTEC4技能のCEFR-JのA2.2以上をめざさせるとともに、第二外国語の語学検定試験、英検準1級等資格取得に挑戦させる。
- エ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる。

※生徒自己診断において、令和5年度までに「国際交流・国際理解教育が充実」95%以上(H30:95%、R1:94%、R2:91%)を達成する。

※令和5年度までに、2年次GTEC検定版において、CEFR-JのA2.2以上の生徒27%以上(R2:23.1%)を達成する。

## 5. 学校力の向上

## (1) 組織で課題に取り組む体制づくりの推進

- ア 教科・学年・分掌の協働体制を確立し、すべての教職員が学校経営参画意識を持つ教職員集団を組織する。
- イ 人権や防災、生徒の健康と安全、オンライン学習や観点別学習状況の評価、大学入試改革に応じた進学指導、綱紀保持等、さまざまな研修の機会をつくる。
- ウ 一斉退庁日の徹底、会議のオンライン化や掲示板を活用した情報の共有に取り組み、働き方改革を推進する。

## (2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進

- ア 学校説明会等における「花園 PRESS」活動や WEB ページの充実、及び、地域・中高・高大の連携を推進する。
- ※教職員自己診断において、令和5年度に「組織が有効に機能」70%以上(H30:64%、R1:59%、R2:67%)、「各組織の連携」55%以上(H30:53%、R1:47%、R2:48%)、「校内研修は役立つ」75%以上(R1:55%、R2:74%)、「中学生への情報発信」90%以上(R1:88%、R2:91%)、「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」90%以上(R1:88%、R2:91%)、保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」90%以上(R2:89%)を達成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成	(1) 授業力向上の取組み	ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究・実践を教科内で共有し進める。 イ 観点を明示した考査の試行、パフォーマンス課題や振り返りシート等の試作・実施、各観点を評価する取組みの配点の決定、試行・検討を重ね、生徒にとって公正かつ有意な評価ができるよう準備する。 ウ ICT を活用した効率の良い授業開発・実践を進める。 エ 互見・研究授業を活発に行い、「花園高校の授業スタンダード」の確立に努める。	ア・授業アンケート総合 3.35 以上[3.30] ・「授業計画」3.40[3.43]、「知識・技能が身についた」3.30[3.31]以上を維持 イ・1、2学期末考査での試行・検討会の実施 ・3観点に対応した教務内規の改訂 ・生徒自己診断「授業はわかりやすい」76% [75%] ウ・生徒自己診断「ICT 機器が活用されている」90%[89%] エ 教職員自己診断「校内研修は教育実践に役立つ」75%[74%]	
	(2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み	ア・1・2年次各2回学力生活実態調査及び分析会を実施し全体化する。  イ・パフォーマンス課題・振り返りシートの試行実施を通じた個別の学習支援を進める。	ア・分析会2回実施、職員会議等で報告、教科会を經由して授業等に反映(国数英) ・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力(2年次2回め)B2 以上 30%[25%]、B3 以上 70%[54%] イ・本格実.32 施に向けた課題・シートの試行実施 ・生徒自己診断「授業・補習を通じて進路に必要な学力を得ることができる」88%[86%]	
	(3) 自学自習の習慣を確立する取組み	ア・予習・復習の習慣を定着させ、授業に意欲的な生徒を育成する。 イ・オンライン学習を導入した講習・補講の実施  ウ・各学期に1冊以上の読書啓発を行う。	ア・生徒自己診断「態度良く集中して授業を受ける」84%[83%] イ・生徒自己診断「自学自習の習慣がついた」55%以上を維持[56%] ウ・年間10冊以上本を読んだ生徒 40%以上	
2 将来を目標とした進路を切り拓く力の育成	(1) 進路指導体制の構築	ア・3年間の進路指導計画を新たに策定する。 ・教科・学年・分掌一体の指導体制を構築。 ・3年次当初第一志望大学に進学できる指導を組織的に行う。 イ・大学や企業等と連携したキャリア教育をを拡充する。	ア・高大接続改革を踏まえた進路指導計画及び目標を策定し、全教職員で共有 ・第一志望進路実現率 65%以上、国公立大学及び難関私立大学合格者 80 名 イ・進路指導計画に沿った外部連携進路学習 1・2年次各2回実施	
	(2) 探究的学習の推進	ア・「総合的な探究の時間」の学習計画を練り直し、効率よく遂行する内容と体制をつくる。  イ・生徒が自発的に探究し、まとめて発表する学習活動をキャリアパスポートに反映させる。  ウ・SDGs に係る探究活動を通して教科横断的・包括的思考力及び共感力を育成する。	ア・進路指導計画と並行した「総合的な探究の時間」の実施 ・生徒自己診断自分の進路についてしっかりと考えている」77%[75%] イ・生徒自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上[85%] ・「花園進路探究プログラム」100 名参加 ウ・生徒自己診断「探究的な学習を積極的に取り組む」70%[68%]	

<p style="text-align: center;"><b>3</b> 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成</p>	<p>(1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成</p> <p>(2) 社会性の育成</p> <p>(3) 自主的な活動への参画</p>	<p>ア・誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていく権利を尊重する心を育み、互いに認め合う集団育成を進める。 ・同和問題について学習し理解を深める。</p> <p>イ・情報リテラシーの学習を進める。</p> <p>ア・規範意識を持ち、自主自律の精神を育み、基本的な生活習慣を確立する。 ・挨拶運動、遅刻防止週間の実施</p> <p>イ・日常の清掃活動の推進 ・クリーンアップキャンペーンの実施</p> <p>ア・生徒が企画・運営する花高祭を実現する。 ・ボランティア活動等の地域連携を深める。</p> <p>イ：部活動を頑張る生徒を応援する。</p>	<p>ア・生徒自己診断「人権を尊重することについて学んでいる」88%以上を維持[89%]、「HR 教室は居場所として快適である」88%以上を維持[88%]、人権について考える機会 各学年3回以上 ・同和問題に係る人権学習を実施(3年次)</p> <p>イ・教科と連携した情報リテラシーの学習を各学年で実施する機会をつくる</p> <p>ア・年5回以上遅刻者数1%減[17.8%] ・生徒自己診断「私は本校の校則や決まりをよく守っている」92%維持[92%]</p> <p>イ・生徒自己診断「教室や廊下等は清掃が行き届いている」66%[65%]</p> <p>ア・生徒自己診断「HR 活動や生徒会活動に積極的に参加」84%以上[83%]</p> <p>イ・生徒自己診断「部活動が活発」90%を維持[92%] ・生徒会活動、ボランティア活動、部活動等自主的な活動で活躍する生徒を公式ブログ等で紹介する(年 30 回以上)。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>4</b> 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成</p>	<p>(1) 多文化理解教育の一層の充実</p> <p>(2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実</p>	<p>ア・姉妹校等との WEB 交流を推進する。 ・多文化理解に係る体験的学習を進める。</p> <p>イ・語学教育を通して、他国の文化や伝統、習慣等について学ぶ機会を充実する。 ・文化国際部を中心に多文化理解教育を推進する。</p> <p>ア・新たな CanDo リストに基づく4技能を総合的に伸ばす教育を実践する。特に今年度は ・高いレベルの会話能力を育成する。</p> <p>イ・1年レシテーション及び2年スピーキングコンテストやインターナショナル・フェスティバル等を機会にスピーキングスキルを育成する。</p> <p>ウ・2年次全員を対象に GTEC 検定版を実施、1年次では継続してアセスメント版を実施、3年次で希望者を対象に検定版を実施する。 ・外部講師を招聘し英検準1級対策講座を実施、第二外国語検定にも挑戦させる。</p>	<p>ア・姉妹校等との WEB 交流 10 回以上[10 回] ・多文化共生について考える機会5回以上</p> <p>イ・生徒自己診断「国際交流・国際理解教育が充実」90%以上を維持[91%]</p> <p>ア・実力診断テスト英語(10 月実施)において学習到達度の人数 1年次 A3以上 8.0%以上[9.2%] B3以上 76%以上[81.3%] 2年次 A3以上 9.0%以上[9.2%] B3以上 70%以上[67.0%]</p> <p>イ・レシテーションやスピーキングコンテストで生徒が発表する機会 年1回以上 ・インターナショナル・フェスティバルへの参加</p> <p>ウ・CEFR-Jの2年次 A2.2 以上 25%[23.1%] ・英検準1級合格者2名以上[4名]</p>	

5 学校力の向上	<p>(1) 組織で課題に取り組む体制づくりの推進</p>	<p>ア・「情報化推進部」を新設し、業務分担を明確にしつつ分掌間や学年との協働体制を確立し、迅速かつ確実な業務遂行を図る。 ・新学習指導要領の実施や授業改革、校務分担の改編等様々な喫緊の課題解決に向けて、教科・学年・分掌が連携し、各組織が有効に機能するよう年間スケジュールを明示し共有する。</p> <p>イ・「ゆまにてなにわ」を全職員に配布し、人権に係る職員研修を実施する。 ・防災に係る本格的な職員研修(実働防災訓練)を計画・立案する。 ・観点別学習状況の評価に係る研修を継続して実施、試行を踏まえた PDCA を行う。</p> <p>ウ・一斉退庁日を徹底する。 ・会議のオンライン化や掲示板を活用した情報共有を定着させる。 ・超過勤務の加算時間や除外時間の入力を促し、正確な勤務時間の把握に努める。</p>	<p>ア・校務分掌組織及び業務分担の改編 ・設置目的の達成に有効に機能する委員会組織の構成の再編整備 ・月1回の学年会と教科会の実施 ・「学校運営スケジュール表」の作成・共有 ・教職員自己診断「組織が有効に機能」68% [67%]、「各組織の連携」53% [48%]</p> <p>イ・教職員自己診断「研修は役立つ」75% [74%] ・パッケージ研修を実施し、試行実施を進めながら、令和4年度新しい評価による教科指導がスムーズにスタートできるようにする。</p> <p>ウ・オンライン会議の実施 ・掲示板の活用及び閲覧の習慣の定着 ・繁忙期(4~6月)の時間外勤務平均時間を45時間未満にする。[R1:46時間、R2:22.5時間]</p>	
	<p>(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進</p>	<p>ア・「花園 PRESS」活動を充実し、生徒による広報を推進する。 ・本校ホームページ及び公式ブログに、日々の様々な教育活動を掲載・公開し、生徒の様子や教職員等が取り組む様子を、学校内外に発信し、信頼される学校づくりを進める。 ・保護者に対し、メール配信サービスやホームページ等を利用して迅速かつ的確な情報を提供する。 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲で中高連携や高大連携のプランを考える。</p>	<p>ア・「花園 PRESS」による中学校訪問の実施 ・学校説明会での司会執行や校内案内役を務める機会3回。 ・ホームページまたは公式ブログの更新を合わせて年300回以上行う。 ・保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」90%[89%] ・教職員自己診断「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」90%以上[91%] ・「中学生に必要な情報発信を十分に行っている」90%以上[91%]</p>	